

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200421		
法人名	有限会社しあわせ		
事業所名	グループホームしあわせ		
所在地	三重県四日市市水沢町横堀5137-1		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町提出日	令和5年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvo_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2490200421-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

茶畑に囲まれた広大な山系を眺められる環境の中、四季を感じながらのんびりと生活していただいている。音楽やスポーツを好まれ、毎日歌声や笑い声が絶えない施設である。散歩や外出等で近隣の方々と交流を行っている。各利用者の状況を理解し、気付きを大切に職員間で話し合い問題点の改善に努めている。利用者に寄り添い介護させていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の敷地内に、通所介護、居宅介護支援事業所、有料老人ホーム等併設して立地し、お互いに連携しながら地域に密着した事業所となるように努めている。新型コロナも緩和の時期を迎えた今季でも、感染症対策を徹底して利用者が地域から孤立しない様に気を配ると共に、利用者の思いや意向に添える支援を全職員が行っている事は、利用者の落ち着いた表情から伺える。共用空間や居室の窓から地域の茶畑や、季節の草花(桜や菜の花、向日葵、コスモス等)が見られ、季節の移り変わりを目と肌で感じる事が出来ている。また 5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰の頭文字を取ったもの)等の実践による職場環境の整備もされて、業務改善の取り組みをしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示し、職員間で共有し実践している。	職員間で話し合っって作った理念「感謝の心」を常に心に置き「ありがとう」と笑顔を大切にして支援している。また 8つの心構えを日々振り返り職員間で共有しながら支援しているとの聞き取りで理念が活かされている事が分かる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為ボランティアの訪問はできていないが、施設周辺の散歩や近隣への外出を行い、地域の方々との交流を行っている。	コロナ禍で地域との付き合いは殆ど無かったが、5類に移行した昨今、小学校の文化祭に作品を展示して地域交流が出来た。また散歩時には気軽に挨拶が出来る環境で、お花や野菜を頂く時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭に参加し、地域の方々に施設の取り組みを発信し理解していただけるよう取り組んでいる。運営推進会議に参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・サービス等の報告や防災関連など地域との情報交換をおこなっている。現状を報告し、意見をいただき向上に努めている。	コロナ禍で事業所内での開催で各構成員には、郵送で意見を頂きその意見に対して対策を取り支援してきた。5類に移行した5月から対面で開催し新しい情報や、貴重な意見も出され有意義な会議になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みを報告し、必要な時には連絡を取り協力関係を築けるよう努めている。	コロナ禍で電話や書面で連携を取り信頼関係を築く事を心がけた。新型コロナも5類に移行し、各種手続きや事故報告、家族との問題等の相談に行きその都度解決出来、協力関係は築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行っている。職員間でも日常的に話し合い、共通の意識を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所独自で作成した「身体拘束廃止の指針」があり、月1回の職員会議で全職員が勉強している。3カ月に1回、「身体拘束適正化委員会」を開催し会議録も丁寧に記載し整理されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行っている。利用者の小さな変化や身体状況を観察し、情報を職員間で共有する。職員の負担軽減にも努め、虐待が見逃されないように注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修を行い、制度について学んでいるが現状では活用するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。改正の都度説明を行い、書面を送付している。疑問点があれば随時お話を伺い、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があれば、速やかに職員間で話し合い家族に報告・相談を行っている。取り組んだ内容を運営推進会議で報告している。	毎月「グループホームしあわせたより」と「利用者個々の日常生活の様子（文書で）」を郵送する事により、家族との会話が増え「安心できる」とお声が聞けた。新型コロナも緩和の時期を迎え居室の換気を良くして居室面会としている。	利用者や家族は事業所に対しての意見や要望はしにくいものであるという前提に立ち事業所側からのアプローチや家族会のあり方を工夫して再開し検討をされる事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では、社長・施設長が出席し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。	日常業務中や職員会議中に意見が出しやすい雰囲気、気楽に話し合える関係にある。短時間勤務者の導入等柔軟な対応もされている。職員の意見から入浴時の介護負担軽減の為、シャワーストレチャーを購入できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や提案を聞く機会を設け、働きやすい環境を作れるように努めている。有給消化、資格取得・研修に積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行っている。休憩時間等でYouTubeやSNSなどを使い、新しい移乗方法などを学び介護技術の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設を見学し、その施設の設備や取り組みを参考にサービス向上に取り組んでいる。職員によっては同業者とのネットワークを持ち、社外勉強会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧にかかわり、不安なことや心配なことを一つ一つ解消しながら、ご本人の安心を確保するよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	詳しく情報を聞き取り、報告・相談をしながら、介護させていただき安心していただけるよう、より良い関係に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭での様子など聞き取りを行い、本人と家族が必要としているサービスを見極め提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人ができることを見出し、役割を担っていただいている。本人と積極的に関わり、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を面会時や電話、また日常生活の様子を月1回書面にて発送し、家族様に伝えしている。運営推進会議や年1回の家族会を開催し現状の報告を行い、家族間の交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、他事業者との交流はできていない。家族様との外出時に馴染みの人や場所との交流をされている。	youtubeで昔の街並みを鑑賞し馴染みの場所を思い出し、馴染の場所作りや利用者の思い出話に繋げる事が出来た。また会社の同僚や知人が訪ねて来たり、家族とは電話で、思い出を引き出す時がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の相性を見ながら状況に応じ、孤立しないよう職員が中に入ったり、座席の配置を考えるなど支え合うように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とコミュニケーションをとり、好きなことや嗜好品などを把握するよう努めている。困難な利用者様の場合は表情や声などから読み取り、ご本人の気持ちを尊重している。	家族から聞く今までの生活歴を踏まえて要望等は、個人日常記録や申し送りノートに記載して、個別に把握し職員間で共有している。また日常会話の中で想いをくみ取り、可能な限り希望に添うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報をいただき、把握に努めている。また日常の会話から聞き取ったことを職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の情報や心身情報を個別記録に記入する。変化等があれば速やかに職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状況を把握し、常に必要とする支援を考え会議等で意見を交わす。家族にも相談し理解していただき介護計画書を作成している。	個別の日常記録に生活の様子、心身状態等が丁寧に記載されている。業務日誌から主治医、看護師の意見、家族の意見も参考にして計画作成担当者が、介護計画を作成し、利用者主体の計画書になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常記録に生活の様子、ケアの内容、心身状態を記入している。朝夕の申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の必要に応じた訪問歯科・薬剤師による居宅療養管理指導を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物・花見などのお出掛けや外出を行い、地域交流に取り組み利用者に楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療を受け、内容を家族に報告している。必要に応じ、家族と一緒に状況説明を受けるなど、より良い関係を築いている。	利用者の健康管理を個人記録に職員と看護師が記載後、主治医に報告し指示を受け、個々の健康状態を把握し、個別の対応をしている。訪問看護利用で日々の体調管理と状態変化時にすぐに対応できる事が、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化がみられた場合、看護師に相談し適切な指示をもらっている。週1回訪問看護事業所による体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病院へ面会に行き情報をもらい、退院時にカンファレンスに参加し相談員との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設の指針に沿って対応する。重度化した際には、家族・主治医・職員間で本人に合った治療や介護について話し合い、より良い介護を行う。	「看取りについての事例確認書」に沿って対応している。訪問看護師の健康管理と、主治医の訪問診療を受け、主治医と相談し指示を受ける体制は整っている。職員も終末期のマニュアルを使用し看取りケア学習をし支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当施設のマニュアルに沿って対応する。主治医との相談、指示が受けられる体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間想定を含めての避難訓練を行っている。防火訓練に参加し学んだことを職員に周知し訓練している。	年2回の避難誘導訓練をしている。水害の心配はないが、火災と地震に備えた訓練をしている。自家発電機を設備し、3日分の備蓄はある。消防署開催の研修に参加予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重して、本人の立場に立った言葉かけや介助を行い、職員間でも言葉使いなどを注意し合っている。	言葉にできない方は、表情や身振りで読み取るように努めている。日頃の何気ない一言で利用者を傷つける事が無いように、職員間で話し合っている。日々の記録等は、利用者、家族の目に触れない様に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを言葉で表せない利用者に対して時間をとり、ゆっくりと話をし傾聴し表情からも読み取り自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、できる限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し整髪している。更衣時に職員とコミュニケーションを取りながらその人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を提供している。利用者と一緒におやつ作りなどを楽しみながら手作りしている。	食の楽しみとして、クリスマスや誕生日に、ケーキでのおもてなしが利用者の楽しみになっている。また利用者から「美味しいわ」と笑顔での言葉が職員の励みにもなっている。目で食を楽しめる様に盛り付けにも気を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日違ったゼリーを作り水分補給を行い、食事量が不足している利用者には高カロリー食を処方していただいている。一人一人の水分摂取量を記録し把握している。希望に応じて夜間帯に水筒などをお渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夕食後に義歯の洗浄を行っている。嚥下機能の低下がみられる利用者には、舌ブラシを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排泄パターンを掴み、トイレへ誘導している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛け、誘導を行う事で自立支援になっている。また利用者個々に対して、どのような対応が良いのか、管理者と職員とで検討し誘導支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い便秘の予防に努めている。水分摂取量を把握し、適切な水分量を取っていただくよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向や体調に合わせて入浴していただいている。重度の利用者が安全に入浴していただけるようストレッチャーを購入し対応している。	週3回午前中の中の入浴提供で職員と一緒に歌を歌い入浴を楽しむ工夫をしている。職員と1対1での会話の時間でもあり安全に快適な入浴が出来るように支援している。入浴後に保湿剤を塗布し、綺麗な肌で利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人により、午後から休息を取り入れている。入床前には水分摂取を行いスムーズに入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬説明書のファイルを作成し、職員も把握するよう努めている。訪問診療時に主治医からの指示や本人の様子を記入し相談している。服薬の変更や疑問はその都度薬剤師に説明を求め理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一ひとりのできることを見出し、作品づくりをしている。散歩や四季折々の行事を計画し楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、ドライブや買い物などの行事を計画し楽しんでいただいている。	新型コロナウイルス感染症が緩和の時期の昨今、感染症対策を徹底し車窓から牧場や紅葉見学は出来た。また外出レクとして敷地内散策や近隣の畑へと外気を味わい気分転換ができる支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度で所持されている。訪問販売によりお買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者がみえ、自由に連絡を取り合われている。家族に電話をかけたり面会時に家族から手紙を受け取られたりしてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間帯の照明の明るさや室温は本人の要望に沿って対応している。壁画や作品づくりを通じ、季節を感じていただいている。	広いリビングを中心に対面式の台所があり周りの居室が一望できる。天窓、高い天井でリビングは明るく、空調も程良い。木のぬくもりで心身の癒しが感じられる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間で自由に席を移動し談笑されている。孤立しないよう職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家族の写真・プレゼントされたお花など、家族・本人と相談しながら落ち着ける場所作りをしている。利用者の状況をみて家具の配置換えをしている。	居室の入り口には、利用者と職員が手づくりした表札が楽しく安心できる雰囲気を出している。居室内は、なじみの調度品を配置して安心して過ごせる室内となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の活動力・特性にあった環境整備を施し、居室及び共有スペースでのあらゆるリスクの極小化を図るように努めている。利用者様が自由に活動できるよう自立支援に努める。		